

第3回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：平成28年12月20日（火）

午後1時30分から

場所：弥富市 十四山支所 第4会議室
（十四山支所3階）

○議 事

1.開会

事務局 （羽飼）	・ただ今から、平成28年度 第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
-------------	--

2. 弥富市長挨拶

事務局 （羽飼）	・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・今年も押し迫って、今日はもう20日という状況であるが、何かとお忙しい中、当協議会にご参加いただき感謝する。 ・平素は私どもの行政にそれぞれの立場からご支援、ご協力をいただいていることをこの場を借りて厚くお礼申し上げる。 ・海南病院が12月11日に完全竣工という運びになった。6年間の長い年月だったが、愛西市、木曽岬さんも含めて弥富市もコミュニティバスをまわしている状況である。市民の皆さん、あるいは住民の皆さんにとっても病院と直結している状況であるので、ご利用いただきたいと思っている。 ・本日は議題として、皆さまのお手元にもあるように利用実態調査結果について、あるいは平成28年度地域公共交通確保維持改善事業についてご協議賜りたいと思っている。どうぞ忌憚のないご意見をいただきながらこの会を進めさせていただきたい。よろしくお願いします。
事務局 （羽飼）	・本日の会議資料の確認をさせていただく。
事務局 （久野）	会議資料の確認をする。 事前にお送りした資料として、 ・資料1：利用実態調査結果（最新） ・資料2：平成28年度地域公共交通確保維持改善事業・事業(自己)評価(案) ・資料3：平成28補助年度 補助系統別事業評価票（蟹江線） また、資料2、資料3については、文字が小さくなっており、見にくい部分もあるかと思うので、A3に拡大した資料も準備しているので、ご希望の方は申し出ていただきたい。

事務局 (羽飼)	・ 今後の議事については、議長の山崎先生にお願いする。
-------------	-----------------------------

3.議題

(1) 利用実態調査結果（最新）について

山崎議長	・ 公益財団法人 豊田都市交通研究所の山崎である。よろしくお願い申し上げる。 ・ 議題に入る。 ・ 本日の議題は3つある。「(1) 利用実態調査結果（最新）」「(2) 平成28年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について」「(3) その他」とある。 ・ (1) は事務局からの報告事項。(2) はご審議いただく議案となっているので、よろしくお願いする。 ・ 「(1) 利用実態調査結果（最新）」事務局より説明をお願いする。
事務局 (久野)	○資料説明 ・ 最新の利用実態調査結果について資料1を基にご説明する。 ・ まず、協議会の決算年度となる、4－3月期で集計した結果で、平成28年10月までの状況についてである。 ・ 乗車人員の推移についてだが、全てのルートをし合わせた1日平均乗車人員は昨年度よりも増加している。 ・ 各ルート別には、2ページに北部ルートの状況を、3ページに南部ルートの状況を、4ページに東部ルートの状況を整理している。 ・ また、5ページにルート別乗車人員のまとめがございますのでご覧いただきたい。 ・ 上段の表で1日平均乗車人員を、下段の表で1便あたり平均乗車人員を整理している。 ・ 平成27年度から平成28年度への1日平均乗車人員、1便あたり平均乗車人員ともに、全ルートで増加している。 ・ 次に、議題(2)の事業評価と関連する、確保維持改善事業の補助年度の10－9月期で修正した結果について説明する。 ・ 平成27年度から平成28年度への乗車人員は、全体で2,924人(4.2%)増加しており、特に北部ルートでの増加が大きくなっているが、一方で南部ルートの平日で減少している。 ・ 7ページでは、上段の表で1日平均乗車人員を、下段の表で1便あたり平均乗車人員を整理している。 ・ また、全体では増加しているが、南部ルートの平日で減少している。 ・ 最新の利用実態調査結果については、以上となる。
山崎議長	・ ただいま説明があった利用実態調査結果（最新）に関してご質問、ご意見等あればお願いします。
杉本委員 (愛知運輸支局)	・ 6ページに確保維持改善事業補助年度ということで、どうしても国の補助が年度の最後に支払うことになるので、4－3月の会計年度にくると国の補助が出ないという話になる。10－9月という集計期間になっている

	ことを知っていただきたいと思う。 ・この中で、全体が 2,924 人。一方、南部ルートが H27 年 10 月～H28 年 9 月までを見ると減っているという話があった。休日に関してはプラスになっているが、平日の利用が減っているということだが、前に戻って、3 ページを見ていただくと、南部ルートの H28 年 4～10 月は増えているという結果が出ている。おそらく 27 年 10 月～28 年 3 月の間で減少が大きかったのではないかなと思われる。その辺の理由等わかれば補足で説明をお願いしたい。
山崎議長	・事務局お願いします。
事務局 (久野)	・モニタリング調査等、前回の会議で発表させていただいているが、はっきりとして減少原因というのはわかっていない。全体の調査の中では、全体的に増えてきているので、今まで乗っていた人が前年と比べて利用頻度が上がって、そのために基本的に全体的に乗車人員が増えていることはわかるが、南部ルートについて何が理由でというのは、はっきりとしたことは今のところはわかっていない。
山崎議長	・先ほど、杉本さんからご指摘があった 3 ページ、南部ルートの平日を見ていただくと、H27 年度の 10 月以降少なかった。H24 年から計測しているが、H27 年の下半期が一番少なかった。年度のくくりを変えることで影響が出てきている。その理由に関しては、今お話しされたように理由はよくわからないということである。
伊藤委員 (女性の会)	・今年度 7 月に、私たち女性の会でいこいの里へ 20 何名行っているののでこのあたりが増えているのではないかなと思う。
山崎議長	・1 日平均で 1 ヶ月間を出しているの、1 日だけだとそこまで上がるほどではないかもしれないが、いずれにしても皆さんで使っていただくのは良いことである。
伊藤委員 (女性の会)	・往復で 20 何名使っているの。
山崎議長	・確かに毎日使っていた 1 人、2 人の方が使わなくなったりすると、こういう平均値に大きく出てきたりする。 ・全体として見れば増えてきているということで結構なことだと思っている。減っているところに関しては、理由がわかればなるべくそこを追求していけるようにしていただけるといいかなと思う。

3.議題

(2) 平成28年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について

山崎議長	・議題（2）平成28年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 ・平成 28 年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価について資料 2 を基にご説明する。 ・平成 27 年 10 月から平成 28 年 9 月までの平成 28 年度、弥富市においては、「地域公共交通確保維持改善事業」のうち、「地域内フィーダー系統

	確保維持事業」による補助を受けており、事業・自己評価として、指定の様式に基づいて整理したものとなっている。この事業・自己評価は、来年 1 月中旬までに愛知運輸支局へ提出することとなっている。 ・ 1 ページ目は事業の評価についてである。 ・ 記載項目としては、左から①補助対象事業者、②事業概要、③前回の事業評価結果の反映状況、④事業実施の適切性、⑤目標・効果達成状況、⑥事業の今後の改善点となっている。 ・ ①補助対象事業者は、三重交通（株）となっている。 ・ ②事業概要は、弥富市内を巡回する 3 路線（北部ルート、東部ルート、南部ルート）を運行し、各ルートとも近鉄弥富駅やイオンタウン、総合福祉センター等の主要な施設にアクセス。また、東部ルートは飛島公共交通バス蟹江線と一部バス停を共有。と整理している。 ・ ③前回の事業評価結果の反映状況は、弥富市地域公共交通網形成計画を策定したこと、海南病院改築・蟹江警察署移転等に伴うルート・ダイヤ見直し検討したこと、無料お試し乗車券を配布し、新規利用者の掘り起しを実施することによって、新規利用者が 84 名いたこと、また、情報提供等周知活動の実施内容などを記載している。 ・ ④事業実施の適切性は、計画通り、モニタリング調査（利用者アンケート）を実施し、できる限り利用実態やニーズの把握に努めていること。また、協議会を計 4 回開催するとともに、広報誌や市 HP で調査結果の情報提供に努めており、適切に実施していることを踏まえ A 評価としている。 ・ 評価基準については、A 評価は事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された・されているということになっている。 ・ 「⑤目標・効果達成状況」については、「満足度の向上」と「1 便あたり乗車人員の増加」という 2 つの目標を掲げていた。 ・ 「満足度の向上」については、モニタリング調査の結果から、「非常に良い」「やや良い」の回答が 51.2%と、前年度の 49.1%よりも増加しており A 評価としている。 ・ また、「1 便あたり乗車人員の増加」については、前年度から北部ルート及び東部ルートは増加しているため A 評価、南部ルートは減少しているが、減少幅も小さいことから B 評価とし、全体の評価としては「目標を達成できていない点があった」ということで B 評価とする。 ・ 「⑥事業の今後の改善点」については、平成 28 年 12 月 1 日にダイヤ改正を実施すること、東部ルートや南部ルートにおいてニーズに即した運行改善を検討予定であること、継続的な利用促進活動の推進が必要であることとしている。 ・ 続いて 2 ページ目、地域公共交通の目指す姿としては、網形成計画で示した基本方針「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」について記載している。 ・ 3 ページ目以降は中部様式 1 として、自己評価の概要を整理したものと
--	---

	なっている。こちらは、先ほどの 1 ページ目の内容を補足するような形で、少し詳細に整理したものとなっている。 ・ 3 ページ目には、「1. 協議会が目指す地域公共交通の姿」ということで、地域の特性や総合計画・都市マスでの位置づけの内容、網形成計画での内容について整理している。 ・ 次に 4 ページ目です。 ・ 「2. 計画の達成状況の評価に関する事項」では、網形成計画における 2 つの数値目標、「目標 1：1 便当たり平均乗車人員の維持・増加」ここで訂正をお願いしたい。次の目標 2 だが「目標 2：1 便当たり平均乗車人員の維持・増加」となっているが「目標 2：利用者満足度の向上」に修正をお願いする。「目標 2：利用者満足度の向上」について記載している。 ・ 次の「3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容」では、上段の枠内で弥富市地域公共交通活性化協議会の開催状況を、その下に各種調査結果の概要として利用実態調査、モニタリング調査、無料お試し乗車券の配布結果について記載している。 ・ 一番下の枠内では具体的な取組み内容として「弥富市地域公共交通網形成計画の策定（実施主体：市、市民、交通事業者）」「海南病院改築及び蟹江警察署移転等に伴うルート・ダイヤの見直し検討（実施主体：市、交通事業者）」「無料お試し乗車券の配布（実施主体：市、交通事業者）」「情報提供等周知活動の実施（実施主体：市、飛島村）」について記載している。 ・ ここで、情報提供等周知活動の実施については、木曽岬町 HP へのきんちゃんバスの情報掲載もなされたので、実施主体に木曽岬町も追加し、説明文章を「弥富市 HP への飛島公共交通バス（蟹江線）の情報掲載、飛島村及び木曽岬町 HP へのきんちゃんバスの情報掲載」に修正したいと思う。 ・ 次に 5 ページ目である。 ・ 「4. 具体的取組みに対する評価」では、事業実施の適切性、目標・効果達成状況の評価、地域全体の公共交通網を踏まえた評価の 3 つの視点で記載している。 ・ 事業実施の適切性の評価については、計画通り各種事業を推進しており、適切に実施しているものとしている。 ・ 次の目標・効果達成状況の評価では、「生活交通確保維持改善計画」の目標に対しては、満足度の向上は達成し、1 便当たり乗車人員数の増加については南部ルートで減少しているため一部目標を未達成。 ・ 網形成計画の目標に対しては、このままの維持・増加傾向を維持できれば目標を達成できるものとしている。 ・ 地域全体の公共交通網を踏まえた評価では、利用者が増加していること、きんちゃんバス相互の乗り継ぎは見られるが、蟹江線との乗り継ぎ利用をしたことがある人は少ない状況にあること、海南病院改築及び蟹江警察署移転等に伴うルート・ダイヤの検討や、あわせて幹線系統である飛
--	---

	島公共交通バス蟹江線との乗り継ぎダイヤを検討するなど利便性の向上を図っていること、飛島村も参画している弥富市地域公共交通活性化協議会（年４回開催）において議論・情報共有を図っていることを記載している。 ・次に「5. 自己評価から得られた課題と対応方針」についてである。 ・３点ある。 ・まず、「幹線系統との乗り継ぎ利便性の改善」についてだが、きんちゃんバスの利用者数は増加傾向となっているものの、蟹江線との乗り継ぎ利用は少ない状況にあるため、近鉄蟹江駅へのアクセス需要の把握や乗り継ぎダイヤの調整、周知活動など、継続的に取り組みを推進することが必要とし、平成 28 年 12 月 1 日のダイヤ改正時の乗り継ぎダイヤの改善の実施や、現在実施している十四山地区アンケートにおいて蟹江駅へのアクセス需要を把握しようとしていること、網形成計画に事業としても位置づけられている、蟹江線が運行している飛島村役場への南部ルートへの乗り入れ検討や、きんちゃんバスと蟹江線との乗継券発行の検討について記載している。 ・次の「ニーズに即した運行改善の検討」では、きんちゃんバスの利用者数は増加傾向となっているものの、東部ルートは他のルートに比べて運行本数、利用者数ともに最も少なく、南部ルートにおいては利用者が伸び悩んでいるため、ニーズに即した運行の改善が必要とし、東部ルートが運行する十四山地区住民を対象に運行改善に関するアンケートを実施し、改善を検討していること、南部ルートについても、住民意向を把握し、改善の検討を予定していることを記載している。 ・次に 6 ページ目である。 ・こちらは中部様式 2 となっている。 ・まず「1. 直近の第三者評価の活用・対応状況」についてである。 ・昨年度の第三者評価委員会における事業評価結果を一番左に 3 つ記載しており、それに対応するように、反映状況、今後の対応方針について記載している。 ・1 つめの第三者評価委員会における事業評価結果として「平成 25 年 10 月のダイヤ改正後にアンケート調査を兼ねた「バス停乗降者数調査」及び「無料お試し乗車券の配布」などに取り組み、減便に伴う影響や乗り継ぎ状況の把握、新規利用者の開拓に努められていることについて、評価します。」という評価を頂いている。 ・これに対し、平成 28 年 3 月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」において、各事業に関連し実施する調査等として利用実態調査やバス停乗降者数調査（OD）、モニタリング調査等の各種調査を、実施時期もあわせて位置づけ、調査を実施している。無料お試し乗車券の配布についても事業として位置づけ、今年度も実施している。とし、今後も網形成計画に即し、事業や調査を継続的に実施することとしている。 ・2 つめの第三者評価委員会における事業評価結果として「現在、各課題
--	--

	に対応すべく「地域公共交通網形成計画」を策定しているとのことなので、計画の中の評価の仕組みを検討するとともに、計画策定後は、地域の観光資源の発掘や、更なる交通サービスの充実及び利用促進が図られることを期待します。」という評価を頂いている。 • これに対し、平成 28 年 3 月「弥富市地域公共交通網形成計画」策定。 • 「弥富市地域公共交通網形成計画」では、各事業について「関連し実施する調査等」を明記し、実施時期も位置づけるとともに、全体の評価スケジュールも位置づけている。 • 平成 28 年 12 月 1 日のダイヤ改正においては、バス利用の多い海南病院への乗り入れ等を実現するとともに、本市の観光資源の 1 つである「歴史民俗資料館」への全ルート停車も実施している。とし、今後、東部ルートや南部ルートでも改善を検討することを記載している。 • 最後に「2. アピールポイント」として、海南病院へ乗り入れによる利便性の向上の検討では、設計段階からバスの乗り入れ、停車場所等について海南病院やバス事業者との調整を実施し、バス利用も多い海南病院への乗り入れ（乗降場所整備）を実現したこと、診察や面会の時間を踏まえたダイヤ調整を実施したことを記載している。 • また、将来的な利用を期待した需要の掘り起しとして、市内全戸のほか、将来的な利用を期待し市内小学生全員に無料お試し乗車券を配布したことや、親子で利用しやすいように夏休み時期を利用期間に設定したことを記載している。 • 平成 28 年度地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価については、以上となる。
山崎議長	• ただ今、説明があった確保維持改善事業・事業（自己）評価（案）に関しまして、ご意見、ご質問をいただきたいと思う。いかがか。
杉本委員 （愛知運輸支局）	• 自己評価だが馴染みがない方は何だと思われるかもしれない。国の補助を使っていると、必ず評価をして報告をするのが義務付けられているので、こういった評価を出していただいている。 • 別添1と別添1-2については本省への報告様式となっているので、こういった内容が本省へ報告される。本省については、あくまで補助事業に関しての評価でいいと言われているので、補助を活用している3路線について報告いただいている状況である。 • 資料2の別添1を事前に見させていただいて見落としていたが、事業実施の適切性のところで、「3路線を計画通り運行した」という評価を追加で入れていただきたい。 • 中部様式については、中部運輸局独自の評価となっている。本省はあくまで補助事業に対しての評価だけだが、それでは公共交通のネットワークからすると不十分だろうということで、私どもは当初から独自様式を作成して取り組み全体の評価をしていただいていた。特に昨今、活性化再生法の改正等で、弥富市さんにおいても交通網形成計画を策定いただいた。交通網形成計画の中に位置づけられている中では、事業評価をし

	なさいというのが活性化再生法のひとつの目玉でもあるので、必ず何らかの形で形成計画の事業に対しても評価をしないといけない。別々にいろんな資料を作るのであれば、こういった様式を活用して網形成計画の評価をしていただければ、結果的に皆さま方、住民の方とか委員の方にお目通しをいただく。そうすると市の公共交通や計画がどうなっているのか、あるいはどんな事業をやっているのか一目でわかるようになる。有意義に活用していただければということで中部様式を作成させていただいている。 ・おそらく28年度中の事業ではないので謳われていないかもしれないが、75歳以上の無料化事業をすでに弥富市さんはされているかと思う。様式1に入れるところではないかもしれないが、様式2のアピールポイントに「高齢者の移動手段を確保している」、「利用しやすいような施策を講じている」と加えていただければそれぞれの自治体さんにも伝わるのではないかと思う。 ・自己評価をしていただくと、中部運輸局では自己評価に対して第三者の目を見て二次評価をするという第三者評価委員会がある。当初は毎年実施していたが、協議会（自治体）が非常に多くなってきたこともあり、今は隔年で実施をさせていただいている。弥富市さんについては、今年の2月、第三者委員会の補助対象になっていたもので、H29年2月に開催される第三者評価委員会は対象外となっているが、自己評価については毎年度すべての補助対象の事業者さんにはご提出をいただく。H30年度2月に第三者評価委員会があるので、その時に28、29と2ヵ年分の第三者評価委員会で評価をすることになるので、そういったスケジュールで進んでいることを補足させていただく。
山崎議長	・ご指摘いただいた点、事務局から願います。
事務局 (久野)	・ご指摘いただいた箇所について、追加させていただきたいと思う。
山崎議長	・よろしく願います。 ・他によろしいか。
福田委員 (民生委員)	・75歳以上は無料パスをいただくが、これを使って私たちはどこへ行けばいいのか。市内だと名古屋市では買い物やデパート、美術館に行ったりと皆さんお使いになっているが、現在弥富でパスをもらったからどこへ行こうということがわからないようである。また、新しい方がどんどん弥富市へ入ってきているので、配布していただく時にルート毎にこんなところがあるというのを漫画的でもいいので付け加えていただくと、若い人もお年寄りの方も使えるのではないかと思う。 ・私は生まれてからずっと弥富だが、鍋田の奥の方へ行くとずいぶん変わってしまって、弥富もこんなにたくさんの工場ができて立派になったんだと実感している。よそからおいでになった方やずっと弥富に住んでいても奥の方で車にも乗らないおひとりの方は特に弥富の実情を知らないと思う。病院や近場に行くぐらいに使うよりも、高齢者だと外へ出てい

	ただ機会があって、野鳥園へ行ったり、時を過ごせるのではないかと思いますので、地図にこのルートにはこんなところがあるを書いていただくと、行こうかなという気になるのではないかと思いますがいかがか。
山崎議長	・非常に良いことを言っていただいた。まさに中部様式の評価の中にある第三者評価で言われた観光資源の発掘というところにつながっていくような話かと思う。事務局いかがか。
事務局 (羽飼)	・大変おもしろい意見をいただき感謝する。おっしゃる通りだと考えている。ただ、私どもバスの運行する主管と、例えば観光であったり、いろんな施設の管理者もいる。その中で市として力を出しながら、またそういったのもぜひやってみたいと考えている。貴重なご意見に感謝する。
山崎議長	・今の意見に対して何かコメントとかよろしいか。 ・おっしゃられたとおり、交通というのは決して目的ではなく手段である。何かをやるためにそこに行く手段なので、バスに乗るのが大好きという中にはマニアみたいな人もいるが、そうではなくて高齢者にとってはどこかにお出掛けするということが大事で、何か用事があって、楽しいことがあってお出掛けするので、そういったものをつくっていつてあげることが大事であると、私どもの研究業界でも言われている。 ・商業観光系のところとも連携しながら今後考えていただきたいと思う。 ・他にいかがか。
木全委員 (公募委員)	・新聞で名古屋競馬場が弥富のトレセンへ移るという記事があったが、もし具体化したらきんちゃんバスは対応を考えているのか。
服部市長	・名古屋競馬場の移設は、正式には今月26日に競馬組合の議会があり、そこでご承認をいただかないといけない。方向的には間違いないと私も確信している。先日も県から説明をいただいたが、我々としては議会の正式決定を待ちたいと思っている。
山崎議長	・確かに大きな変化である。弥富のきんちゃんバスは、南部ルートは特に基幹バスにしてもいいぐらいの大きな車両も使っているので、市民の皆さんに「競馬行こうよ」みたいな話もあるかもしれない。高齢者もそこに行く元気になるような…。 ・自己評価の書類を1月半ばまでに支局さんに提出する。先ほどご指摘があったようにしっかり読んでいくと何かミスとか出てくるかもしれないが、細かいところは支局さんにご指導いただきながらしっかりチェックしていく。ご審議いただきたいと思う。地域公共交通確保維持改善事業・事業（自己）評価（案）に関しまして、ご承認いただける方は挙手をお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・全会一致である。 ・承認いただいたので、この（案）を取っていただいて、支局さんの指導をいただきながら最終的な資料を提出していただきたい。よろしく願います。

3.議題

(3) その他

山崎議長	・議題（3） その他であるが、資料3がある。事務局より資料の説明をお願いする。
事務局 (久野)	○資料説明 ・報告がある。 ・資料3として「平成28補助年度 補助系統別事業評価票（蟹江線）」をお配りしている。 ・これは幹線系統である飛島公共交通バス蟹江線の事業評価となっており、既に運輸支局に提出されたものとなっている。 ・蟹江線の評価としては、「2.H28年度の運行状況」において「計画どおり運行されたか」「目標・効果達成状況」とともにA評価、「3.H28年度の取り組み状況」においてもA評価とされている。 ・また、今後の課題として運営主体では「降雨時の朝夕通勤・通学時間帯における乗降客のピーク時に、満車に近い状況となっており、将来、積み残しが発生する懸念がある（直近は、ダイヤ改正により対応。将来に向けて増車対応の検討を実施予定としている。）」とされており、平成31年度には飛島村でも次期交通網計画を策定し、その中で増車について検討するものとしている。 ・なお、この評価票には、蟹江線が運行する各市町村の所見等を記入する箇所があり、弥富市についても記載されている。 ・弥富市については、基本的に先ほど議題（2）でご説明させていただいた事業（自己）評価での内容と同じような内容が記載されているので、説明は割愛させていただくので、その他の項目も含め、お時間のある時にご覧いただければと思う。 ・以上となる。
山崎議長	・ただ今報告いただいたように、飛島村さんからすでに提出されたものである。きんちゃんバスは飛島公共交通バス蟹江線のフィーダー路線、支線的な役割があるということで補助金をいただいている。これに関して、何かあるか。
石屋委員 (交通対策課)	・若干、補足的に説明させていただく。 ・資料3については、県から各運営主体さん、沿線の市町村さんに記載をお願いして作成していただいている。ここでは飛島公共交通バス蟹江線については、地域間幹線系統として国庫補助を受けている路線である。地域間幹線系統確保維持計画として各市町村さんや事業者さんが一緒になり、支局さんも入っていただき、愛知県のバス対策協議会で計画を作り国の認定を受けて、その結果国庫補助を受けられることになっている。従って、計画の自己評価も愛知県バス対策協議会で行わせていただくが、最終的に国に出す様式としては、先ほどの資料2でご案内いただいたような様式になっていて、各路線については1枚目の各路線1行使った形のイメージで提出させていただく。それを作成するために各路線、運営主

	体をまず書いてもらい、利用者の成績等を記入していただき、関係の沿線の市町村さんも所見をご記入いただき、運営主体に戻ったところで県に出していただくという形で提出いただいているものである。 ・そもそも地域間幹線系統というの沿線の市町村さんでもって支えていただくものであるので、弥富市さんにとって隣の市のバスではあるが、市内も通っているので十分関心を払っていただき利用促進に努めていただければと思う。 ・乗り継ぎということで、所見では残念ながら少ないということもあるが、近くの方も意外と使えるかもしれないので、きんちゃんバスの補完ということも時間帯によっては可能な存在なのかもしれないので、その点のご利用も十分考えていただければと思う。 ・市町村さんの所見だが、沿線の住民の方も何か利用促進に向けて、いいアイデア等あればお寄せいただければと思う。
山崎議長	・補足いただいた。 ・ご意見、ご質問よろしいか。 ・昼間も1時間に1本あるので使いやすいバスかと思う。きんちゃんバスと上手く乗り継ぎできることを弥富として今後取り組んでいけるようお願いする。 ・本日の議題はここまでとなるが、すべてを含めて何か委員さんから意見等あればお願いする。
杉本委員 (愛知運輸支局)	・先ほど福田委員から非常にいいご意見があった。私自身も非常に近いところに住んでいる。生まれも育ちも旧佐織町で、当時は津島までバスで行ける状況であった。今は車が当り前の世界だが、私の小さい頃は両親も車の免許を持っていなかったということで車自体がなかった。移動するためにバスを使うか、自転車を使うか、歩くか、それしか選択肢がなかった。私も両親に連れられてバスに乗って津島、あるいはそこから名古屋屋に向かうというお出掛けが非常にわくわく感を覚えた。バス停の近くに駄菓子屋さんや店屋があると、バスを待つ時間におねだりをしてチューイングガムを買ってもらったり、あるいは帰ってくるバスの時間が少し空いていると近くの店屋で親はコーヒー、私たちはパフェとか食べていたという状況があり、小学校の低学年からひとりでバスに乗っている出掛けていたこともあり、バスに対する抵抗感がなかった。 ・子どもさんはバスも含めて公共交通に乗ると楽しいのではないかと思います。ぜひ、皆さまのお子さま、お孫さまを通じて一度バスに乗っていただくと、こんなところに行けたのかということが逆に覚えてくることがあると思う。 ・75歳以上は無料ということで取り組みが進んでいる弥富市だが、最近、高齢者の運転事故が非常に起こっていて免許返納の動きもある。免許返納するとどこにも行けなくなるのではという話もあるが、ある市の会議の話で、家族の説得に応じて免許を返納し、市のコミュニティバスのバス停が近くにあったので一度乗ってみたところ「これは使える」と、そ

	れから頻繁にバスに乗って喫茶店に行ったり、あるいはいろんなところにお出掛けするようになったという報告があった。こういったバスを使えるようなツールをご提供するということもあるし、一度乗ってみると「ここに行ってくれるんだ」と思えると、次回から乗るきっかけにもなると思う。ぜひ持続可能な公共交通のネットワークをつくっていただくためには皆さま方のご協力も必要なので、引き続き私どももいろんな面で支援していきたいので一緒に頑張ってやっていきたいと思う。
山崎議長	・ 実体験に基づいてお話しいただいた。弥富は無料お試し券を続けてやっている。お試し乗車券を上手く活用して体験していただくという取り組みを今後も続けていただきたいと思う。 ・ 議題はこれですべてである。 ・ 進行を事務局にお返しする。
事務局 (羽飼)	・ 次回協議会は3月頃の開催を予定している。日程が決まり次第ご案内させていただきますので、よろしくお願いします。 ・ 以上をもって、平成28年度第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を終らせていただく。今後ともご協力を賜るようお願い申し上げます。
	以上